

## 【vol.22】7つの海ならぬ、7つのスケールポジション~その2~

こんにちは、大沼です。

7つのポジションその2、という事で、今回もやっていきましょう。

前回は4つのポジションを解説したので、  
残りは3つですね。

このトレーニングに関しては何も言うことはありません。  
頑張ってください。笑

1日1回でも弾いていけば、思っているよりも  
ずいぶん早く覚えられるものです。

継続は力なり、ですね。

気合入れていきましょう。

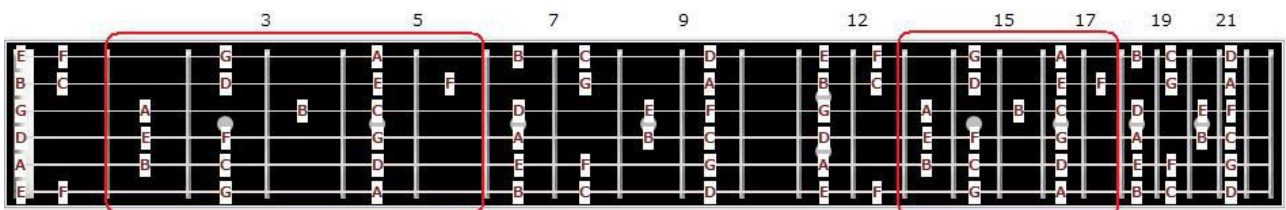
さて、前回はアイオニアン(=イオニアン、メジャースケール)、  
ドリアン、フリジアン、リディアンの4ポジションでした。

今回は残りの、ミクソリディアン、エオリアン、  
ロクリアンの3ポジションを覚えます。

例のごとく、名前とスケールの関係性は今は深く考えなくて良いので、  
Cメジャースケール上の全7ポジションを覚える事がメイン、と置いてください。

そのついでに、各ポジション(スケールの形)の名前も覚えている、と。

では、5つ目のポジションはこちらです。



ここは、CメジャースケールのG音からスタートするポジションになりますね。

15フレットの場所でも弾けますが、あまりにハイポジションすぎると少し弾きにくいので、1オクターブ下げて、3フレットのG音からスタートしましょう。

S-Gt

mf

TAB

3 5 2 3 5 2 3 5 | 2 4 5 3 5 6 3 5

TAB

3 6 5 3 5 4 2 5 | 3 2 5 3 2 5 3

この、ギター特有の「1オクターブ上げたり下げたりしてもポジションの形が変わらない」という感覚を早めに身につけてくださいね。

練習法としては、何でも良いので、弾けるフレーズをオクターブで上げ下げして、色々なポジション(指板上の位置)で弾いてみることをお勧めします。

どんなものでもOKです。バックングでも、ソロでもなんでも。

気軽に実験してみてください。

さて、スケールの名前ですが、このCメジャースケールのG音から始めるポジションは、ミクソリディアンスケールのポジション(音の並び)となります。

では次、6つ目にいきましょう。

3 5 7 9 12 15 17 19 21

E B G D A E

ここもハイポジでもいけますが、練習しにくいのでオクターブ下げる、と。

練習譜例はこちらです。

The image shows a musical score for S-Gt (Solo Guitar) in 4/4 time. The score is divided into two systems. The first system has two measures. The melody starts on the A string (5th fret) and moves up stepwise: 5, 7, 8, 5, 7, 8, 5, 7. The second system has three measures. The melody continues: 4, 5, 7, 5, 6, 8, 5, 7. The tablature is written below the melody.

この A 音から始まるポジションは、エオリアンスケールのポジション(音の並び)になります。

さて、ここは、以前、C メジャースケールのポジションをいくつか覚えた時に、すでにやっていますね。

あの時は C 音から始めて、C 音で終わりましたが、今回は、A 音から始めて A 音で終わります。

おそらく、C 音基準の時は明るいスケールの様に感じる(聴こえる)はずで、A 音基準の時は暗いスケールの様に感じる(聴こえる)はずです。

これも、同じようなことをペンタの時にやりましたね。C メジャーペンタと A マイナーペンタはポジションの場所はまったく同じものでした。

実はこの、A 音から始まるポジションは、エオリアンスケールの他にも、ナチュラルマイナースケールのポジションとも言える(呼べる)のです。

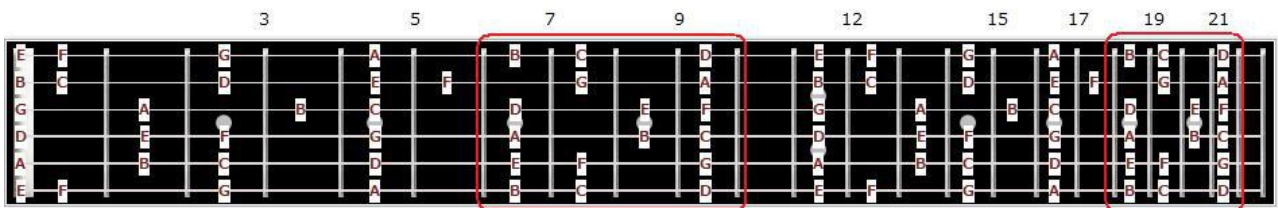
楽典的に、メインで扱うマイナースケールは 3 種類あるのですが、なにが「ナチュラル」なのかは後々解説しますので、今は単純に、これが基本となるマイナースケールなんだ、と思ってもらえれば OK です。

と、言うことで、C メジャーペンタと A マイナーペンタが、  
まったく同じポジションで対になっていたように、  
この C メジャースケールと、A ナチュラルマイナースケールも対になっています。

この2つのスケールはまったく同じポジション(形)って事ですね。

その意味と理由については、マイナースケールの解説のときにお話するので、  
少々お待ちください。(※通常、「マイナースケール」と言う場合、  
この「ナチュラルマイナースケール」の事を指します。)

では最後、7つ目にいきましょう。



ここもローポジションの方で弾きます。

ここの、C メジャースケールの B 音から始まるポジションは、  
ロクリアンスケールのポジション(音の並び)になります。

形としては、一つ目のアイオニアン(メジャー)スケールと同じですが、  
スケールとしての意味が違ってきますので、別なものとして覚えましょう。

さて、これで7つ全てのポジションの紹介が終わりました。

あとは、日々の練習の中で、繰り返し弾いて覚えてください。

聞きなれないスケール名が7つも出てきたので、  
初めの内は色々と混乱する部分もあるかと思えます。

一応、7つのスケール名が覚えやすい(?)  
語呂合わせみたいなものがあるので紹介しますね。

イオニアン(アイオニアン、メジャースケール)  
ドリアン  
フリジアン  
リディアン  
ミクソリディアン  
エオリアン(ナチュラルマイナースケール)  
ロクリアン

の頭文字をとって、

『井戸振り見えろ』(振り返って後方にある井戸を見るようなイメージ)

という、語呂合わせなのですが、僕が中高生くらいの頃に読んだ、  
初心者向けの理論書に書いてあったものだと思います。

僕も昔、これで覚えたので、これが覚えやすいと感じる人は、  
活用してください。

さて、話は変わりますが、例えばギター上級者が、  
指板上で弾く音を間違えないのは、その曲の中で鳴らして良い音がわかっているのは、  
このようなスケールポジションを全て覚えているからです。

誰も、弾いているうちに何となくわかってきたわけではなく、  
単純に、地道に1つずつ覚えていった成果です。

おそらくあなたも、今まで覚えてきたペンタやらなんやらで、  
その実感があることでしょう。

それを積み重ねていくことによって、ギターを自由に弾きこなせる、  
というレベルに到達できます。

最初の方にも書きましたが、こういったものは、  
もう、気合で覚えてもらうしかありません。笑

慣れるまでが大変ですが、その後は、何をするにも楽になってくるので、  
頑張ってください。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼